

中学部三年B組

世界はありがたいと

藤崎 大樹

ありがたいもののお話をしよう
いつからだろう。ふと気がつくとき、
ありがたいということばを、ためらわず
口にすることを、誰もしなくなった。
そうしてぼくたちの関係は貧しくなった。

ありがたいものをおありがたいと言おう。
嬉しさや苦しみの感情はありがたいと。
病気になるっても薬があつてありがたいと。
きれいな水を飲めてありがたいと。
ここで戦争がなく平和がありがたいと。
自分と支えあつてくれる友達がいればありがたいと。
負けてても励ましてくれるチームメイトがいればありがたいと。
学校に行つて学べることはありがたいと。
将来に備え、学問を教えてくれる先生にありがたいと。
学校への準備をしたり、お弁当を作つてくれてありがたいと。
今、家で住むところがあることがありがたいと。
体を壊したら、看病してくれる人がいてありがたいと。
おなかを満たす食事が食べられてありがたいと。
僕の希望をかなえてくれる親がいてありがたいと。
夢を与えてくれた両親にありがたいと。
毎日、頑張つてくれてる親にありがたいと。
生まれた時から僕を見守つてくれてありがたいと。

ありがたいものをおありがたいと言おう。
生きていることはありがたいと。

この世に生を受けて、命が燃え尽きるまで。

何一つ永遠なんてなく、いつか

言えなくなる日が来てしまうのだから、世界はありがたいと。

自分を表現する書道

中村 青葉

書道とは、私にとつて自分を表現するものです。そして、日本語という一つの言語を書き示すだけなのに、とても芸術的で、一つの作品となるところが素敵だと思います。

私は書道を習ったことはありませんが、小学校から学校で何度もやることがありました。習っていたわけではないので、毎回あまりうまくいかず正直イライラしてしまうことが多かったです。一文字目は綺麗に書いても、二文字目でバランスが崩れてしまつたり、手に墨がついてしまつたり、毎回毎回掃除が面倒くさかつたり、どうして字を書くだけなのにこんなに。ペースを崩されなくてはならないのだろう、と思うことが多かったです。

ある日、冬休みの宿題で課せられた書き初めを祖母の家でやることになつたので、習字の先生をしている祖母に習うことになりました。祖母はありがたいだけの高級な筆と、良質の半紙を持ってきて、

「好きなものを選んで、好きなだけ字を書きなさい。」

と言つてくれました。学校では半紙は大切に使う、一人何枚と決められているものだったので、私はそう言われてびっくりしましたが、祖母が本当にそう思っていることが伝わつたので、少しワクワクしながら書いてみることにしました。漢字は「希望の光」で、最初は難しくて、何度も練習を重ねていくうちに少しずつうまく、滑らかに書けるようになってきました。その間祖母は全く書き方の指導はせず、ちゃんと丁寧にやる方がいいよ、というアドバイスだけをくれました。

冬休みあけに提出した書き初めは、結局学校で銅賞となり、金賞にはかすりもしませんでした。ですが、展示発表会で私の作品を見た祖母はすごく満足そうな表情で、なんだか嬉しくなりました。

その日以降も、書道に触れる頻度は高くはありませんでしたが、上手く書こうとする変なプレッシャーやストレスはなくなつて、ただ私らしく字を書こうと思えるようになりました。仕上がったものには私の性格や個性が出ていると感じます。今でも習字道具を洗うのは面倒くさいですが、書道が個々の思いを込めて書く一つの芸術として認められている理由が少しわかった気がしました。

W a y m o

梶田 莉帆

毎年と同じく、今年もサンクスギビング休暇で旅行に行った。普通の人は旅行に行くとなったら、楽しみになると思う。でも私はもう旅行はこりこりだった。父が旅行好きなので、少しでも休みがあれば、すぐ旅行に行く。それに加え、休暇の間に友達などとの予定がもう入っていたのにも関わらず、サンフランシスコに引きずられていった。

この旅行で一番面白かったのはW a y m oだ。最近、主要な都心部に走っている完全自動運転のタクシーみたいなものだ。W a y m oのアプリから、無人の自動車を呼び出した。数分待つと、中身が空っぽの車が、真横に駐車した。自分の携帯から車のロックを解除し、乗り込んだ。私は助手席に座り、スクリーンの「開始」のボタンを押した。すると、勝手にA Iらしい声が喋り始め、シートベルトをしろと言われ、自己紹介を始めた。シートベルトをすると、急に自分からハンドルがくるくる回って、車が前進しはじめた。正直、前に座るのは全く落ち着けないほど緊張した。対向車や周りの車や人をセンサーで感知し、ハンドルを回し避けしていく。まるで、透明人間が運転しているのかと思うほどだった。それに加え、後部座席の画面があり、W a y m oが感知している人や車全てをG o o g l e マップのように見ることができると、それを見て、テクノロ

ジの凄さに驚いた。反対車線を入れて四車線ほどの道路の場合、その四車線プラス、両側の歩道を歩いている人全てをセンサーで確認することができるとは。一番怖かったのは、右に曲がる時に、人が横断歩道を歩いていたときだ。本当にW a y m oがその人を轢かないか心配で、怖くて仕方なかった。無事、目的地について面白い体験ができた。実は楽しかったため、その後また二回ほど乗った。

後もう一つ、W a y m oに乗って面白いなと思ったのは、人が歩道を渡らず手前で待っていたりすると、その人が渡るのかな、とW a y m oは思い、その場でフリーズする。これから思ったのは、普通の人ならば、その人の動作や目線で今は渡る気がないということがわかるため素通りする。それに対してA Iは人がいる場所からしか人が渡るかどうか判断できないため一瞬固まるのだ。それに加え、渋滞の中で、車線変更が難しい。普通の人ならば、絶対に車線を切り替えなければいけない場合は、強気で入れてもらうことができる。しかし、W a y m oは危険への判断が速いため、後ろの車が頑固であれば、諦めてルート変更しようとする。A Iと人間ならではの感情の違いが大きく現れる。

この経験から、自動運転の世界は本当に夢ではないことに気づかされた。次は、車が飛ぶ未来が楽しみだ。

推しへの恋

兒子 慶子

思い出したくもない、あの思い出。

私はずっと可愛くない、ブスだ。そうやって自分のすべてにコンプレックスを抱えていた小学六年生だった。肌は日焼けで真っ黒、眼鏡で、似合わないくせに髪はひとつに結んでいて、矯正中だから歯もガタガタ。服装はおしゃれとは一番程遠いスパッツとピンクのTシャツ。足も太いくせに、なんでこんな足のラインが分かるものを着ていたのか今では謎だ。顔も鼻は大きくて、目は一重。そのくせ唇の形だけは良いのに、色はダメダメで乾燥しまくり。そのせいも、学校でも馴染めないままだった。

当時は、自分のどこがダメなのかも分からなかった。今思うと、性格もあまり好ましいものではなかったのではないかと思う。でも、こんなだめだめな私にも転機は訪れた。

人形遊びの動画を見てみると、ある動画が流れてきた。タイトルは「出会って三日で以心伝心した結果大惨事にwwwwww」。ダサ、なんて思っているながらもサムネに惹かれて見てみることにした。すると、仲がいいのか、仲がいいふりをしているのかも分からない「歌ってみた動画」が流れ始めた。再生回数はそこまで多くはないのに、なぜか惹かれてしまった。グループの初々しい感じが逆に味になっていて、でも声が悪い人や音痴な人は一人もいない。そんな「シクフォニ」というグループが、私の人生の転機のきっかけだった。

その人たちの動画を見始めて一ヶ月。私は完全に彼らにハマっていた。特に、グループのすちという癒し担当みたいな、でもまだグループに馴染みきれていないようなメンバーにハマっていた。そして、ある投稿を目にした。界限は違ったけれど、アニメを推している女性のイベントブログだった。そこで私は呆然とした。もし私がこの人たちのイベントに行っても、可愛い子しか印象に残らない。私みたいなキモい女は、きつと目もくれない。そう思った瞬間、私のおしやれの芽が生まれ始めた。

最初は何をしたらいいのか分からず、とりあえず日焼け止めを塗り始めた。可愛い子はみんな肌が白い、そう思いながら。毎日キープするのは大変だったけれど、毎朝学校に行く前に必ず塗った。今思えば、肌色に合う日焼け止めを使えばよかったのに、真っ白なのを塗っていた自分が少し恥ずかしい。それと同時にスキンケアも始めた。ニキビや毛穴は遺伝であまりなかったけれど、どうせこれから増えるし、やるに越したことはないよね、と思いながら始めた。毎朝、毎晩続けるのは大変だったけれど、少しずつ肌がすべすべになっていくのを実感した。

次は服装だった。いくら顔が良くても、服がダサければすべてが台無し。そう思って必死にインスタを漁って可愛い洋服を探した。そして、地雷系の服に目が留まった。ふりふりは着られないけれど、系統はこんな感じがいい。そう思ってから、母が洋服を買うときは必ず付き添った。母と意見がぶつかることはあったが、自分好みを見つけてのがすごく楽しくて、やっと自分は女の子なんだと認識できた気がした。

それから四ヶ月ほど経ったころ、メイクに挑戦し始めた。すっぴんは相変わらず一重で鼻も大きい。肌の色もあまり良くない。じゃあメイクをしよう、となって、安いコスメで試してみたが、これは大失敗。当時は可愛いと思っていたけれど、元のいい人にはやっぱり勝てない。そう思った。だから、マツサージを始めることにした。正直、マツサージで何か変わるなんて思っていなかった。でも、可愛くなりたい。可愛くなってすちくんに見つけてもらいたい。ただその思いだけで動いた。二重のマツサージを毎朝、毎晩、スキンケア後にするようにした。諦めかけた時もすちくんの動画を見て元気をもらった。

次は鼻だ。目が二重になっても、他のパーツがブスならブスのまんま。そう思って、ある動画で鼻クリップの存在を知った。鼻を挟んで高く小さくするアイテムだ。少し高いけれど、最初はアマゾンの安いやつを使ってみた。効果はあまり実感できなかったけれど、可愛くなるためと思つて、毎日十分必ずつけた。

シクフォニに出会ってから一年が経とうとしていた。私はまだこれじやダメだと思い、メイク研究、眉毛の整え方、着痩せの方法、似合う髪型など全部を勉強した。すちくん「可愛い」って言ってもらいたかったから。でも、人気が出てきた彼らは初ライブをやると言い始めた。初ライブは三月十日だっただろうか。海外にいるという理由だけで行けなかった。朝から泣き崩れ、時間を合わせて配信を見た。そこで思い出した。どれだけ頑張ってもイベントに行けなければ、可愛がるのがブスだろうが関係ない。見つけてもらえないんだから。

それから一週間、私は初心に戻った。おしやれをすべてやめた。だって、やる理由がなくなつたから。でもこのままじゃダメだ。また新しい推しを見つけないと。そして可愛くならないと、そう思った。

いろんな界限を見て回ったけれど、シクフォニほど熱量を持てる相手はいなかった。でも、おしやれはまた始めた。きつとまた誰かを推す時が来る。そのときはシクフォニのときと同じ気持ちになりたくない。自分も堂々と胸を張って可愛くなりたい。他のオタクに負けたくない。可愛くなつて、好きって言いたい。その相手が推しただけで、私はきつと恋をしていたんだと思う。長年の。

そして今に至る。気づけば、努力しなくても人は自分の周りにいて、見た目が変わるだけで友達も作りやすくなった。そして、私は今でも「推し」に依存している。今はハイキューだけれど、推して一年が経った。久しぶりにこんなに長く推せて、メンタルも落ち着いている。そして、届かなくても、二次元でも、言ってやりたい。

「私、可愛いでしょ？」って。

SNSと私たちの生活

長友 咲良

皆さんは、一日にどれくらいSNSを使っていますか？最近の調査では、SNSを一日三時間以上使っている中高生は、うつ病や不安のリスクが高くなっていることがわかっています。さらに、SNSが注意力を奪ってしまい、集中しづらくなるといふ研究もあります。でも、SNSにはいいところもあります。自分と同じ趣味の人や、悩みをわかってくれの人と繋がれると、気持ちが楽になったり、自信がついたりすることもあります。

けれど、使いすぎると夜更かししたり、次の日に学校でぼーっとしてしまうこともあります。実際に私も、寝る前にSNSをずっと見ていて、次の日の授業で全然集中できなかつたことが何回もありました。

なので、私はそれを避けるための工夫を考えました。

一つ目は、使う時間を決めることです。私は一日二、三時間だけにし、夜十時以降はスマホを見ないようにしました。

二つ目は、通知を切ることです。必要ない通知をオフにただけで、勉強時などに集中できる時間が増えました。

三つ目は、リアルな時間を大事にすることです。家族や友達と直接話したり、外で遊んだりすることで、スマホを見たいという気持ちが減ると思います。

これが続けたら、授業にちゃんと集中できるようになったし、寝不足も無くなりました。前より気持ちが落ち着いて、毎日が楽になったと思

います。

SNSはとても便利ですが、使い方次第で良くも悪くもなるものです。なので、便利さに頼りすぎず、自分の心と生活リズムを守りながら、上手く付き合っていくことが大事だと思います。

人間の活動と地球温暖化の進行

浅野 優斗

皆さんは、「地球温暖化」と聞くとき、どんな事を思い浮かべますか？水が溶けている北極や、遠い国のニュースを考える人も多いかもしれません。けれど僕にとってそれは、去年の夏の異常な暑さで身近なこととして感じられました。

環境省のデータによると、日本の平均気温は百年前に比べて約1〜3度上昇しているそうです。たったの一、二度と思うかもしれませんが、その結果として猛暑日が増えたり、大雨による被害が増えたりしています。実際、今年の七月に、グアダルペ川が洪水し、その周りにいた人たちに被害をもたらしました。

では、僕たちにできることは何でしょうか。自転車で通学することで、車を使うよりも二酸化炭素の排出を減らしたり、家庭のエネルギー源を再生可能エネルギーに変えたり、ほんの小さな工夫でも、積み重なれば大きな違いにつながります。

さらに、地球温暖化を防ぐことは、自分の健康や快適な生活を守ることに直結しています。猛暑で外に出られなくなる夏より、友達と安心して過ごせる夏のほうがいいですよね。その未来を作るために、僕たち一人一人が行動することが大切だと思います。

最後に、地球温暖化は「誰かが解決してくれる」ではなく、「自分事」として考えるべき問題です。これからも身近にできることを探して実行し、すこしでも温暖化を食い止める力になりたいと思います。

3Rを心がけた生活を

蒲谷 理彩子

皆さんはごみの埋立地を見たことはありませんか。私は、アメリカの高速道路を走っていた時見たことがあります。最初は、小さな山だと勘違いしましたが、よく見てみるとごみがたくさん散らばっていました。そんな普段は見かけない光景にとてもショックを受け、ごみの問題について考えようと思いました。

ごみ問題とは何でしょうか。わかりやすくいうと、ゴミが増えすぎたことによる社会問題です。経済成長と技術の発展によって、私たちの生活は豊かで快適になりました。ですが、「大量生産・大量消費・大量廃棄」という、ものを使い捨てるのが当たり前になった社会は、毎日大量のゴミを排出しています。捨てられた大量のごみは、ごみを燃やした後に残る灰や燃え残りも含めて土の中に埋められます。

けれども、埋立地となる土地には限りがあります。地球規模でみると、まだ土地の余裕は十分にあるそうです。しかし、地域差、法律や決まりごと、運搬の問題があり、簡単に埋める場所を増やせるわけではないのが現実だそうです。だからこそ、ごみを減らす取り組みは重要です。

さらに、燃やして処理することができるもの、リサイクルができるごみが埋め立て地に埋められ続けてしまうと、資源が減っていくなど環境に負担がかかります。また、ごみが適切に処理されないことで、害虫や悪臭が起こったり、感染症の拡大を引き起こしたりします。さらに、海洋ごみやマイクロプラスチックは、海に住んでいる生き物などの生態系に悪影響を及ぼし、人間の健康リスクも高めます。

このまま、問題が解決されずに続いていくと、地球上がゴミであふれ、私たちが安心して暮らし続けるのが難しくなるかもしれません。そうなる前に、少しでも私たち一人ひとりがごみへの関心を持って、重要性を認識し、日常生活に自分自身ができることを取り入れていくことで、持続可能な社会の実現に役立つと考えました。私はこの問題に少しでも貢献できるように、学校でも習った、リデュース、リユース、リサイクル、の3Rを心がけて生活していきたいです。

移民問題について

遠藤 泉

私のスピーチのテーマは移民問題です。特にアメリカのことです。アメリカは移民の文化と歴史で作られた国です。しかし、市民の間で仕事と賃金の競争への不安や、社会サービスへの負担が多くなる恐れから、移民はより良い生活を求めるだけなのに、強制送還(きようせいそうかん)の対象となっています。

私は、強制送還の恐怖に常にさらされている友人たちを知っています。彼らは、ただ店に行くだけでICE(移民・関税執行局)と会う可能性があることに不安を感じていると私に話してくれました。何をしたらわけでもないのに、人生が突然逆転する可能性があるというストレスがあります。これが、多くの移民の現実です。

もう一つ、みんなに知ってほしいのは、アメリカでグリーンカードを取得する難しさです。金を求めてアメリカに逃れてくる人々にとつて、グリーンカードは高く、二千ドルから五千ドルがかかります。払い終わったら、面接を受けなければならず、最終的に拒否される可能性が高く、時間を無駄にすることになります。そのため、多くの移民にとつて、違法入国の方が簡単です。

結局、強制送還ではなく、彼らをサポートすることに集中すべきなのです。移民は経済に貢献して、大切な仕事を埋めるだけでなく、文化を豊かにしています。だから私たちは彼らを歓迎すべきです。

平和への歩み方

植野 凜

「平和とはなにか」、誰もが一度は思ったことがあるだろう。平和とはこの世界において永遠のテーマだと思う。皆が平和のために働き、平和

にしようとしないうることを非難する。でも誰もが思っている「平和」とは、全員同じ定義なのか。

例えば、「戦争がなく世の中が安穏であること」も平和の一つだ。この平和は、誰もが知っている平和の定義だと思ふ。戦争をなくすという行動こそが、平和への第一歩だと思ふ。だから誰でもこの定義を一番に思いつくと思ふ。また他には、「心配事や揉め事がなく、穏やかな状態」を指すときもある。これは少し身近になってくるが、自分の身の回りで何も不安なことや気がかりがなければ、それは平和と言えるだろう。他には、「社会的な暴力や不公平がない状態」も平和の一つだ。社会的暴力や不公平、つまりいじめや差別などがなければ平和と言えるのだ。

もう気付いた人もいるかも知れないが、どの平和の定義も結局は、「戦争がなく世の中が安穏であること」につながるのだ。自分の身の回りの心配事や揉め事は、自分の身の回りで起きている小さな戦争だと考えられる。また、社会的な暴力や不公平は、小さな戦争や大きな戦争の種だと言えるだろう。そうすると、この二つがなかったら、「平和」と言えることになると思えられる。

このように、世の中にはたくさん「平和」の定義があり、そのどれもが似たりよったりで、それに対して日々生活している人がたくさんいる。でも、平和になれていない理由は、人々の「平和」の定義が違うからではなく、平和に向かっている歩み方が違うからだ。でも平和に向かっている歩みの正解は存在しないのだ。だから平和にしようと思わないと思われない人が非難される。でもその人達は、平和に対する歩み方が違うだけで、平和にしようと思張っているのかもしれない。そう考えると、平和に対する歩み方を共通にしたらいいのではないかと思ふが、共通にするなどできないのだ。だから、私達の世界では本当の平和が実現することはないのかもしれない。

【創作文】きつと多分素敵な女の子（パソコンから見た海音）

岡内 海音

僕はパソコン、ある女の子のノートパソコンだ。

いきなりだが僕には悩みがある。それは僕の持ち主の女の子の事だ。持ち主のことを悪く言うのは気が引けるが、僕だって普段雑に扱われてストレスが溜まっていたので今日ぐらいいは許してほしい。

僕の持ち主の性格はうるさくてキレ症。最近は二次元や二・五次元にハマっているらしい。自分の友人の前では可愛くておしとやかなキャラを演じているらしいが（持ち主談）、僕の前では全く別の性格になってしまい困っている。推しの配信を見ては奇声をあげて叫び、学校のテストの点数を見ては悔しさからか地響きが起きそうな勢いで台パンして暴力をふるってくる。この二つだけでも十分酷いのだが恐ろしいことにこれの上が存在する。

それはゲームをしている時。

ゲームオーバーになったとたん奇声を浴びせながらバンバン叩いてくるんだ。もう下手なんだからやめてくれ、僕が壊れる前に。まあだけど、実は僕もやられてるだけじゃない。たまに画面が固まる等のバグを起して持ち主を更に腹立たせている。

こんな感じだ。だいたい大変な僕の持ち主だが、よくよく探してみるとちゃんと良いところもあるんだ。例えば、本当にたまにだけけど、授業の予習や復習をしているとき。勉強している時はすごくしかめっ面だけど、その勉強をしたことでテストで高得点を取れているところを見ると、僕も一緒に嬉しくなってしまうんだ。あとは、金曜日の真夜中に目を必死にこすりながらこの作文を書いているところとかもね。

あれ、ということは今までの悪口も全部見られていたという事か？まあ、新しいパソコンに買い替えられてしまうかもしれない。取り敢えず、「僕の持ち主は頭が賢くて優しい奴」ってお世辞でも書いてこの作文を締めることにしよう。

【創作文】いつもそばから

村山 秀太郎

僕は水筒、学校に行くときや色々な場面で使われているんだ。そんな僕を使ってくれている主人のお話をするね。

僕の主人の名前は秀太郎、とても忘れっぽい性格で先週も僕を学校に忘れていってしまったんだ。それで、僕には最近兄弟ができたんだ。秀太郎くんはよく水筒を洗うのを忘れたり、学校に忘れたりするから、僕ともう一個の水筒の二個体制で学校などに持っていつてもらっているんだ。コレなら、もし学校に忘れていつても安心だからね。

秀太郎くんは実はぬいぐるみが大好きで、家にはたくさんぬいぐるみがあったり、ドラムを練習したり、友達と遊んだり、色々な趣味があるんだ。

というのが僕の知っている秀太郎くんだよ。おっと、足音が聞こえるってことは秀太郎が帰ってきたんだ。じゃあまた会えるときに話そう！またね。

【創作文】ルロイ修道士の生きがい

水田 実久

ルロイ修道士との話をしよう。私が初めてルロイ修道士に会ったのは今から約20年前のこと。

幼かったからよく覚えていないけど、ルロイ修道士に初めて会ったとき、初めての場所と緊張で震えていた幼い私を笑顔で迎え入れてくれた。そのおかげで、私は少しだけ緊張がほぐれた。そして彼はこう言った。「もう何も心配いりません。」そう言って手を差し出してきた。

とても力強かった。痛かったはずなのになぜか温かくて優しくかった。それから数週間後、私は生活に慣れてきた。しかし、どこか心の奥で疑問が浮かんでいた。「なんであんなに人柄が良いのだろう。」

心の中でそう思ってしまうほど、ルロイ修道士は完ぺきな人で天使園にいる子どもたちみんなが慕っている人だった。天使園の掃除は係員や生徒がやるのにもかかわらず、自分から率先してやっているし、朝も早起きして一人で花に水をあげている。そんなルロイ修道士を私は心から尊敬していたし、そんな人になりたいと幼い私でも思ったほどだった。

一つルロイ修道士との思い出ですごく心に残っていることがある。ある朝、いつも七時に起きるのに、なんだか目が覚めてしまい早く起きて天使園の庭に行った。すると、ルロイ修道士はもうすでに花に水をあげていた。私に気づいた彼は、いつもの笑顔で私に「おはようございます。」と言った。「おはようございます。」と私も言った。

「いい天気で心も明るくなりますね。」そう言ったルロイ修道士は両手を高く空に向けて伸ばして、「少し話だけでもしましょうか。」と私に言った。

空を見上げてルロイ修道士は、「天使園は楽しいですか？」と訊いた。私は「楽しいです。」とただ一言だけ言った。いつも一緒に生活しているはずなのに、何故か二人になると何を話せばいいのかわからなくなってしまう。とても緊張していた。そんな私に対して、ルロイ修道士は優しく語りかけてくれた。

しばらく他愛もない話をしたあと、私はずっと疑問に思っていたことを訊こうと思って勇気を振り絞って訊いてみた。

「なんで天使園をやっているのですか？」

するとルロイ修道士は右手の親指をピンと立てた。ルロイ修道士はこういう動作が多いため、どの動作にどういう意味があるのかを覚えるのが大変だった。

多分これは「分かりました。よく聞いて下さい。」という意味だと思う。そして、ルロイ修道士は話し始めた。

「私がこの仕事をしているのは、みんなに普通の幸せを届けたいという一心、ただそれだけです。」

それから続けてルロイ修道士はこう言った。「子どもたちの笑顔が私の生きがいです。」

その言葉はまるで宝石のように美しく、だけど温かいものだった。

母国ではない国で言葉さえも難しいのにそこで人を助けようとしている姿勢に、幼いながらも心を打たれてしまったのだ。

その日からルロイ修道士を今までよりも尊敬するようになった。

「自分でできることは自分でやろう。」そう心に決めて日々を過ごすようになった。天使園の手伝いはもちろん、時にはルロイ修道士よりも早く起きて花に水をあげたりもした。すると、朝みんなが起きたとき、ルロイ修道士は私に向けて右手の親指をピンと立ててくれる。それが何より嬉しかったのを覚えている。

そして、長い月日がたった。

天使園に入って十二年経ったとき、天使園を卒業することになった。自分の行きたい大学が見つかったからだ。

最後にみんなとの別れを告げるとき、ルロイ修道士は笑顔で、

「お元気で。」

右手の人差し指に、中指を絡めてそう言った。当たり前前に毎日過ごしていた自分の家から旅立つのはかなり悲しかった。

別れ際にルロイ修道士と握手をした。一番最初にした、あの握手のよう。感謝と頑張るぞという気持ちを込めた握手だった。

社会人になって就職した今、毎日残業や人付き合いが難しく、カップラーメンの日々。だけど、天使園で学んだお互いのことを考える力、自分でできることは自分でやることを大切に毎日頑張っている。

これからもルロイ修道士から学んだことを大切に毎日過ごしていきたい。